

## ごあいさつ

新世紀も2年目を迎えましたが、「時代と環境とが過去とは異質の大変化の中」にあることを再認識しなければならない、厳しい時代です。そのような中で企業に求められているのは「持続可能な発展」、すなわち、このかけがえのない地球を将来にわたって快適かつ発展的に維持し続けていくことです。

従来から富士フィルムでは、「環境保全」を経営の基本的課題のひとつとして受け止め、以下の三点に重点を置いて環境施策に継続的に取り組んでまいりました。

自然環境に対する配慮(人間と自然の調和)

化学物質に関する安全の確保

ソースリダクション(有限な資源を無駄にしないこと)

そのために製品の開発から製造、物流、使用そして廃棄に至る全プロセスで、自主的に環境保全・安全確保を実現するという「レスポンシブル・ケア」に基づいて環境方針・行動指針・重点実施事項を設定し実施してまいりました。

2001年度に実施した具体的活動といたしましては、化学物質管理システムの継続的改善とグループ会社への拡大、環境配慮設計の基本規則づくり、グリーン購入・グリーン調達推進、環境会計システムによる環境コスト・効果の算出と情報開示、揮発性有機化合物(VOC)大気排出量の1996年度比35%削減、6ヶ所の生産サイト・研究所で全ての廃棄物を100%再資源化するゼロエミッションを達成などが挙げられます。

このほか、省エネとCO<sub>2</sub>排出量削減、懸念化学物質の使用量・排出量の削減、生産サイトでの環境モニタリング、管理者を中心とする環境教育の実施など、環境の負荷低減とパフォーマンスの向上を図ってまいりました。

さらに社会、地域とより緊密にコミュニケーションを行うために環境レポートや各工場のサイトレポートも発行いたしました。

2002年度は「レスポンシブル・ケア」の考え方をさらに発展させ、新しい中期環境方針「富士フィルムグループグリーン・ポリシー」を定めました。「富士フィルムグループ各社は、地球・人類・企業の持続可能な発展を目指し、企業体質・製品・サービスにおける高い環境品質を実現して、顧客満足達成する」を主旨とするこの方針のもとに、グループ全体で目標達成に向けて活動を開始しております。

当社はISO14001を環境マネジメントシステムの標準として位置づけ、既に国内外の富士フィルムグループ70サイトで認証を取得しており、今後もさらに拡大していく予定です。

引き続きまして私どもは経営トップとしての強いリーダーシップを発揮し、「顧客満足」と環境・経済・社会すべてにプラスとなる経営を行うべく、「富士フィルムグループグリーン・ポリシー」の諸施策に取り組んでまいります。

2002年6月



代表取締役会長 大西 實(左) 代表取締役副会長 宗雪 雅幸(右) 代表取締役社長 古森 重隆(中央)

大西 實

宗雪 雅幸

古森 重隆